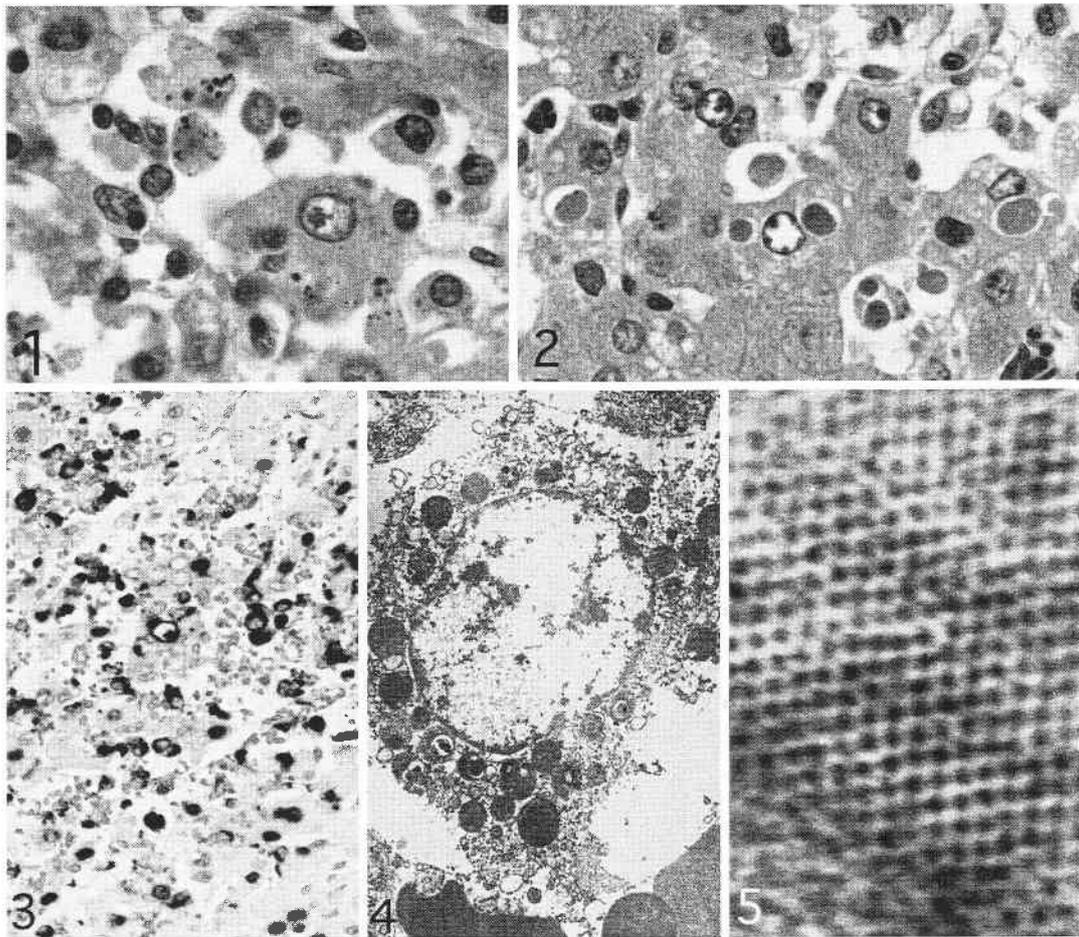


豚の肝臓

(財) 日本生物科学研究所出題 第 41 回獣医病理学研修会標本 No. 791



動物：豚，雄，25日齢。

臨床事項：初乳未摂取の新生豚に豚サーコウイルス (PCV-2) 野外感染豚のリンパ組織乳剤濾過液を経鼻接種した。提出例は接種後18日目より発熱，22日目に元気消失，食欲不振に陥り，23日目に起立困難，呼吸器症状を示して死亡した。

剖検所見：可視粘膜および皮下織に黄染が認められた。肝臓は軽度に萎縮し，外側右葉～尾状葉にかけて約10 X 5 cm 面大にわたり淡黄色化していた。胸腔には黄色希薄胸水が高度に貯留し，肺は全葉にわたり水腫性であった。

組織所見：小葉中心帯～中間帯において肝細胞索は解離し，肝細胞の多くは変性・脱落していた。変性した肝細胞核は腫大し，しばしば小型球状の封入体を含んでいた。肝細胞の細胞質には時折塩基性に強く染色される小型顆粒が数個～十数個認められた (写真1)。また，アポトーシスを示す肝細胞，すなわち好酸体が散在した (写真2)。類洞にはクッパー細胞の腫大・増生およびマクロファージの浸潤が認められた。免疫染色およびISHによりPCV抗原

および遺伝子が肝細胞の核と細胞質，貪食細胞の細胞質において検出された (写真3)。また，TUNEL陽性肝細胞が散在した。電顕観察では肝細胞の細胞質に認められた小型顆粒の多くは封入体であり (写真4)，それらの内部には直径約17nmのウイルス粒子が部分的に結晶状に配列していた (写真5)。また同様の封入体は貪食細胞にもみられた。核内封入体にはウイルス様構造物は確認できなかった。

診断名：「実験的PMWS発症豚の急性肝炎」

考察：本症例にみられた黄疸，全身性の水腫，肝細胞の変性・壊死，リンパ節病変はPMWSの野外例および実験例の報告と一致し，死因は肝不全と考えられた。線維化を欠き，リンパ球の反応が軽微であった点は従来の報告と異なるが，これらは経過が急性で且つリンパ節病変が重度であったことと関連する所見と考えられた。肝細胞にPCV-2抗原および遺伝子，ウイルス粒子などが検出されたことより，肝細胞壊死にウイルスの増殖が関与している可能性が考えられた。